

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201876		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ村松		
所在地	静岡県清水区村松原1丁目7-16		
自己評価作成日	令和4年6月2日	評価結果市町村受理日	令和4年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jigyosvCd=2274201876-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月2回の行事、季節にあった料理のデリバリー、季節に応じた飾りつけ 統一介助ができるよう毎月のスタッフ会議にて課題を挙げ、みんなで勉強会を開催しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在の管理者に交替してから、「地域との関わり」「家族との関係」が格段に向上していて、何より利用者の笑顔の写真が増えています。前向きに改善向上を図ることから方向性が異なる職員は辞めていくため、電話口や玄関先の職員対応も好印象へと変容しています。また各種整備も進み、特に防災についてはベッドに入った状態で「火事だ」のアナウンスにより洗面所に集合する試みも無事成功させ、回を追うごとに前進がみられます。そんな事業所の姿勢を家族も大いに評価しており、鮮魚店に勤務する息子さんが全員に上寿司を差し入れてくださったり、果物がケースで届くなど、家族と親戚のような関係を築きつつあります。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が意思表示することができ、これまでの生活に近い安心した暮らしを提供できるようアセスメント、実践しています。	理念は玄関に掲示され、職員は出勤時に目に見えています。理念に基づく職員の年間目標などはありませんが、管理者が節目節目に言い伝えているため、職員の言動に浸透していることは外部者にも感じられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	かかりつけ医のある方は今まで通り通院して頂き最近では近所の方ともコミュニケーションもとれるようになりました。	運営推進会議の参加がなく、長時間の話し合いもできませんが、自治会の皆さんとは道端で立ち話程度はできています。騒音(声)やごみの問題についてこれまでも尽力いただいております。関係は良好です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、交流制限しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、開催はしていませんが議事録の作成、自治会への配布、誰でも見れるよう玄関へ置くようにしています。	運営推進会議は集まれてはませんが、2ヶ月分の運営状況を書面に落とし込んで、メンバーに届けています。情景が見える記録で、利用者の状況もわかりやすいとともに、事業所の真摯な姿勢も伝わります。	メンバーには往復はがきや返信シートを添えて意見をもらうようにすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	副会長とは今もアポを取り何かある時は協力して頂いています。	市からの配信は必ず確認し、地域包括支援センターとは日頃からコミュニケーションを絶やさないよう図っています。また国から届いた抗原キットも活用しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の為、施錠していますが入り口のカギは開けるようにしています。	「身体拘束適正化検討委員会」は本社に各事業所の管理者が集まり、運営しています。各回に記録係を設け、書面化したものを事業所職員に回覧しています。現在拘束が必要な症状の利用者はいません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4か月に一度スタッフ会議内にて話し合いを行い虐待は暴力だけでなく言葉の暴力についても話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍にて学ぶ機会なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類交わし対面もしくは電話にて説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子を伝える。 おたよりにて意見・要望が聞けるようにしています	毎月「利用者状況報告書」が家族に届けられています。本人の発語や思い出話、訓練状況や暮らしぶりが丁寧に記述され、見守りが確かなことが伝わるためか苦言はありません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の場にて意見交換ができるようにしています	血縁者のメンバーも増え、気軽になんでも言い合えることが促進されています。また、以前は接遇的に課題のある職員もいましたが、朗らかな対応ができる人が増えています。	血縁者については人間関係において好転、悪転の振りが通常よりありがちですので、管理者の一層の配慮を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、査定。 スタッフが得意としているものを伸ばしてあげるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できることから始め、苦手とすることは周りでサポートできるよう話し合い、みんなで安全に支援できるよう実践しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、対面ではないが電話にて交流させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に傾聴を続け利用者様と信頼関係が築けるよう努めています。 家族とも相談し改善できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何かあると会社携帯や施設に連絡をして下さるご家族様が多く、その都度、対応させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安全安楽に過ごせるよう利用者様が必要としているサービスの提供、実費ですがデイサービスも利用して頂き、下肢筋力低下予防や、骨密度を気にされている方にもデイサービスを活用して頂いています。歩行器も本人に合った物を使用させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様によって差が出てしまっているスタッフもいますので個々支援が違うことを指導し関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係は良好だと思いますがご家族様の要望を聞き入れることが難しいときもあり、意見の食い違いが生じることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙等で関係が途切れないよう支援していますがコロナ禍の為、外出が難しく馴染みのある方が面会に来て下さることはありません。	訪問理美容では希望者にはカラーをお願いし、髪型もそれぞれに似合うよう工夫してもらっていますが、せっかくなので家族との面会頻度が低くなっていて披露する場がないのが残念です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的な席替えをしたり色々な利用者様が話をできるよう支援させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様より色々な物を寄付して頂いたり、退去後、タオルや布団、オムツ等を寄付して下さいました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が利用者差が望んでいることをリサーチし全スタッフで希望に添えるよう努めています。	利用者同士の争いに端を發し、家族の協力だけでなく、医師の助言も得られ、事業所全体で改めて認知症について考察する機会がありました。職員一同気持ちを引き締めるとともに、使命感も高まっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様に生活歴を確認し馴染みのある生活、ご本人様のペースにて支援できるよう努めさせて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特変があった時はすぐにご家族様へ報告し安心して暮らせるよう努めさせて頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が望んでいるケア聞き出し、ご家族様にも報告、必要なサービスが受けられるようリーダーと話し合いを行い介護計画を作成して頂いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に必ず記入、特変があった時は申し送りノートに記入して頂き、全スタッフが周知できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問歯科、デイサービス、訪問看護を導入し、利用者様が必要とされているサービスが受けられるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての知識が乏しく今後勉強していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の利用者様にてご家族様と相談し直接先生と話ができるようお願いし、薬の調整や必要な薬を追加処方して頂けるよう支援させて頂いています。状態によっては通院同行させて頂いています。	事業所の協力医と在宅からのかかりつけ医を希望で選んでいます。またどちらの医師とも協力関係にあり、浮腫が気になれば医師と相談して利尿剤をだしてもらい、家族に報告するといったことが叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時はすぐにDrコール行い、訪問看護師とも連携とるようにし適切な看護をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にDrより戻れる条件を聞かれる為、ご家族様の要望も聞き極力早期退院できるよう病院関係者の方とも連携とらせて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療を利用して頂いている利用者様は全員看取り希望であるためご家族様、Drと話し合いをし訪問看護師とも連携を取るようになっています。最期はご家族様が付き添いできるよう早期異変に気付けるようスタッフ内でも話し合いをしています。	此处での看取りを希望する人ばかりのため、常日頃から医療との連携に努めています。昨年の11月には救急隊員を事業所に招き、直接心臓マッサージ、AED、背部叩打法の指導も受け、「誤嚥では心臓マッサージが必要となる」といった学びを深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊に依頼をし施設内にて応急手当の行い方や心肺蘇生、AEDの使い方を研修受けられるようにしています。施設長による24時間対応。急変時はすぐDrコール行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、避難訓練を行い避難地まで避難する練習をしたり消防隊の方に指導をして頂き全職員が万が一に備えて訓練するようになっています。	消防署の立ちあいを得て、併設事業所と防災訓練をおこない、スモークは利用者も体験しています。また「施設防災訓練実施結果報告書」を毎回行政に提出することで見直しを図り、マネジメントサイクルに乗せています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだまだスタッフにバラつきもあり新人スタッフへの指導もまだ途中であり、再度、全スタッフがプライバシーを侵害しないよう勉強会を行う必要があります。	子どもの日のお祝いでは、利用者の子どもの頃の話をお聞き、戦争をはじめ今では考えられないようなことを教えてもらい、若い職員には自然に敬意の念が育っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる時、スタッフ本位になっているときに差があるため利用者様が自己決定できるよう再度促していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本位になっていることが多々見られます。 利用者様に寄り添えるよう支援促します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧される利用者、カラーやパーマをしたいという利用者様もいますので、その都度、支援させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月のイベントの他に、利用者様との会話の中でできた食事を提供できるようデリバリーしたりしています。片付けは利用者様が手伝って下さいます。	お誕生会のケーキやひな祭りやハロウィンなどの行事食、寿司や丼もののデリバリー、焼き立てパンバイキングなどと、普段の食事に彩を添えるメニューが適宜提供され、利用者様を喜ばせています。	現在の食事の記録は1食分のみのため、できれば3食並べて1日、1週間の状況把握があることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない利用者様にはお茶以外の物を提供させて頂いたり、食事摂取の難しい利用者様には食べられる物を無理なく食べられるよう支援させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けにて極力利用者様に行っていただくよう促し、適時、訪問歯科の先生に診て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の様子にてトイレ誘導の時間を変え、なるべくトイレにて排泄ができるよう声掛けしています。バルーン挿入していた利用者様も自発的に排尿ができるようになったためバルーン抜去しオムツ対応としています。	職員2名での介助が必要となっても「できるだけトイレで」を励行してきていますが、現在は介護1が4名、ほとんどが3までと軽度な人が大半です。それでも見守りと後確認は安全衛生のためにもおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者様には牛乳を飲んで頂いたり、腹部マッサージを施行し、なるべく下剤に頼らないよう支援させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前入浴となっておりますので時間を選ぶことはできませんが入浴はご本人様の希望にて決めて頂いています。入浴を楽しんで頂くためにも、入浴剤を入れたりしています。	週2日の午前入浴と頻度などは定まっていますが、希望があれば柔軟に調整しています。また毎週火曜日に訪問がある看護師が爪切りの整容や足浴でのマッサージをおこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠薬を増やさず安心して入眠ができるよう昼間身体を動かして頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する知識についてスタッフの知識は乏しい為、症状の変化に気付くことが遅れてしまうことがあります。今後、勉強会を行います		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月2回のイベントを重視し、楽しい時間が過ごせるよう支援させて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出はできていません。	コロナ禍で外出企画はストップしているため、デリバリーなどで「食べることの楽しみ」を増やしています。家族も協力的で、握り寿司を全員分届けてくださった例もあります。	お祭りや旅行のDVDを上映したり、各地の郷土料理をつくって「行った気になる」などの工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られの症状がある方がいますのでお金は常に金庫にて保管させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ手紙を書かれたり電話の希望がある方には電話して頂くよう支援させて頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るよう飾りつけを工夫したり、飾りつけも利用者様に協力して頂くようにしています。 暑い季節になり熱中症になる危険もあるため冷房入れています。寒いと仰る利用者様も居るので適時、冷房の向きを変えるなど行っています。	外出が実現していませんが、併設のデイサービスでの運動が日課の人たちもいて、閉塞感はありません。準夜勤の手順書には「床の汚れがひどいところは次亜塩素酸水で拭いてください」と注記があり、清潔に保つことへの意識が高いことが覗えます。	焼き芋パーティーをおこなったとき、人気だったようですので、菜園活動をさらに活性化させることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の居室にて井戸端会議される利用者様が居ます。日中はリビングで過ごされる方が多く色々な利用者様と談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使い慣れた物を持ってきていただき住み慣れた部屋に近づけるよう居室内も工夫させて頂いています。お花の好きな方は居室内に飾られたりしています。ご家族様の写真を貼られている方もいます	花や写真など、好みに応じて自室を飾っています。どの部屋にも敬老会で事業所からプレゼントした「メッセージ入りマグカップ」があり、蓋つきなので埃が入らなくていいねと好評です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や目印となるようなものを扉に貼るようにし誰でもわかるようにしています。		